

2. コージェネ等の分散型エネルギーについて

「革新的エネルギー・環境戦略」策定に向けた中間的な整理 (平成23年7月29日エネルギー・環境会議)における記述

(2) 基本理念2:新たなエネルギーシステム実現に向けた三原則



原則1:分散型のエネルギーシステムの実現を目指す。

- 新たな技術体系に基づく革新的なエネルギーシステムを目指す。
- 現在の集権型エネルギーシステム(地域独占の電力会社による大規模電源が電力供給の太宗を担うシステム)の改良ではなく、分散型の新たなエネルギーシステムを目指す。
- 分散型エネルギーシステムへの転換が、エネルギー・環境技術への民間投資を喚起し、新しいビジネスモデルを構築する。経済成長の源となる。
- エネルギーシステムの分散型への転換を、日本の経済社会構造そのものを地域分散型に変革する基盤とし、我が国国土・環境の保全や地域社会の維持・発展につなげる。

基本理念2:新たなエネルギーシステム実現に向けた三原則

原則1:分散型のエネルギーシステムの実現を目指す。

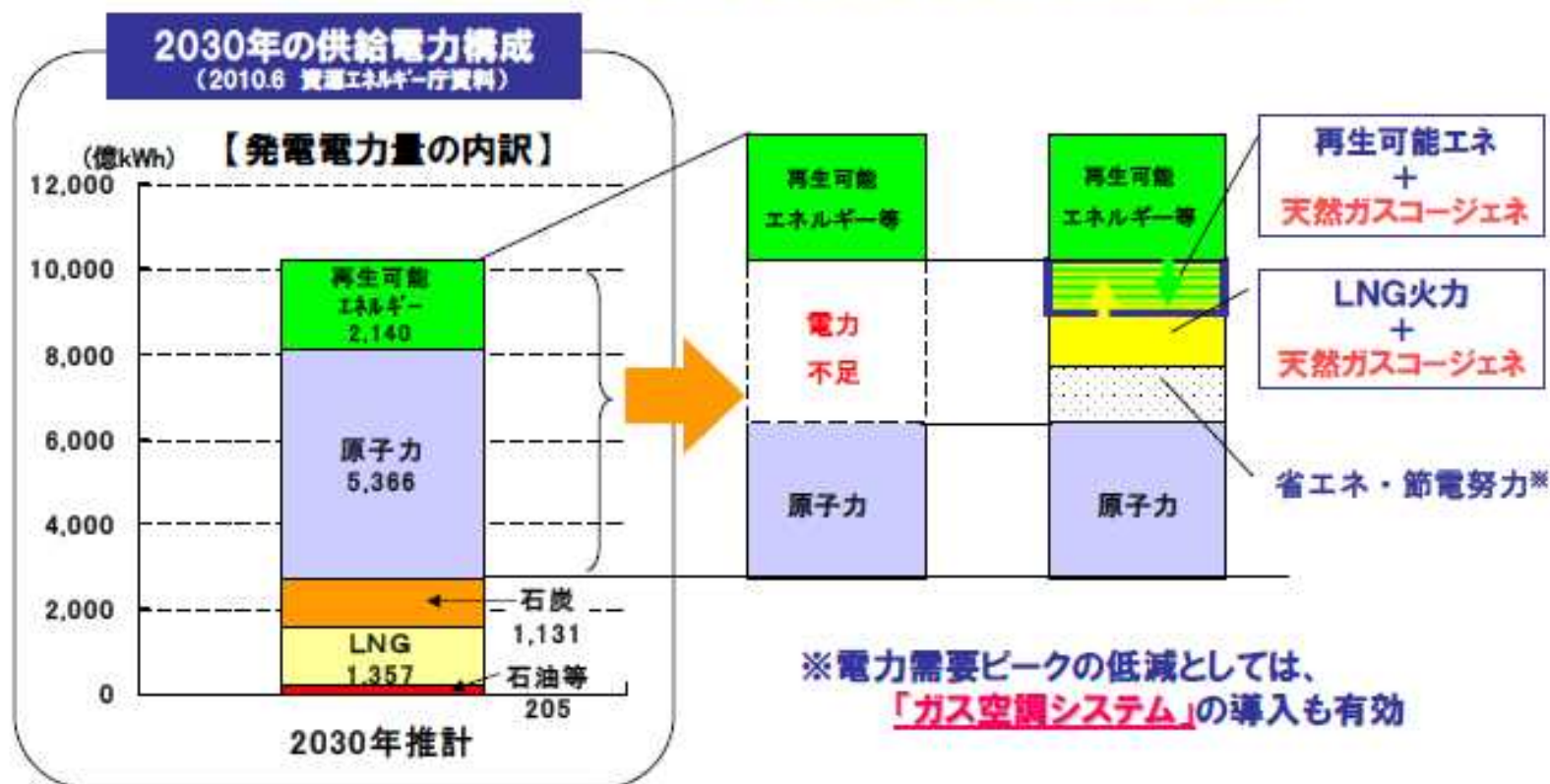
新たな技術体系に基づく革新的なエネルギーシステムを目指す。現在の集権型エネルギーシステム(地域独占の電力会社による大規模電源が電力供給の太宗を担うシステム)の改良ではなく、分散型の新たなエネルギーシステムを目指す。

分散型エネルギーシステムへの転換が、エネルギー・環境技術への民間投資を喚起し、新しいビジネスモデルを構築する。経済成長の源となる。エネルギーシステムの分散型への転換を、日本の経済社会構造そのものを地域分散型に変革する基盤とし、我が国国土・環境の保全や地域社会の維持・発展につなげる。

(参考) 日本ガス協会における見通し(1)

4. 中長期に向けた取組み - (2)分散型エネルギーシステムの普及拡大①

原子力で不足する供給電力は、再生可能エネルギー、コージェネレーションの導入による電源確保と、省エネ・節電による需要削減によって対応

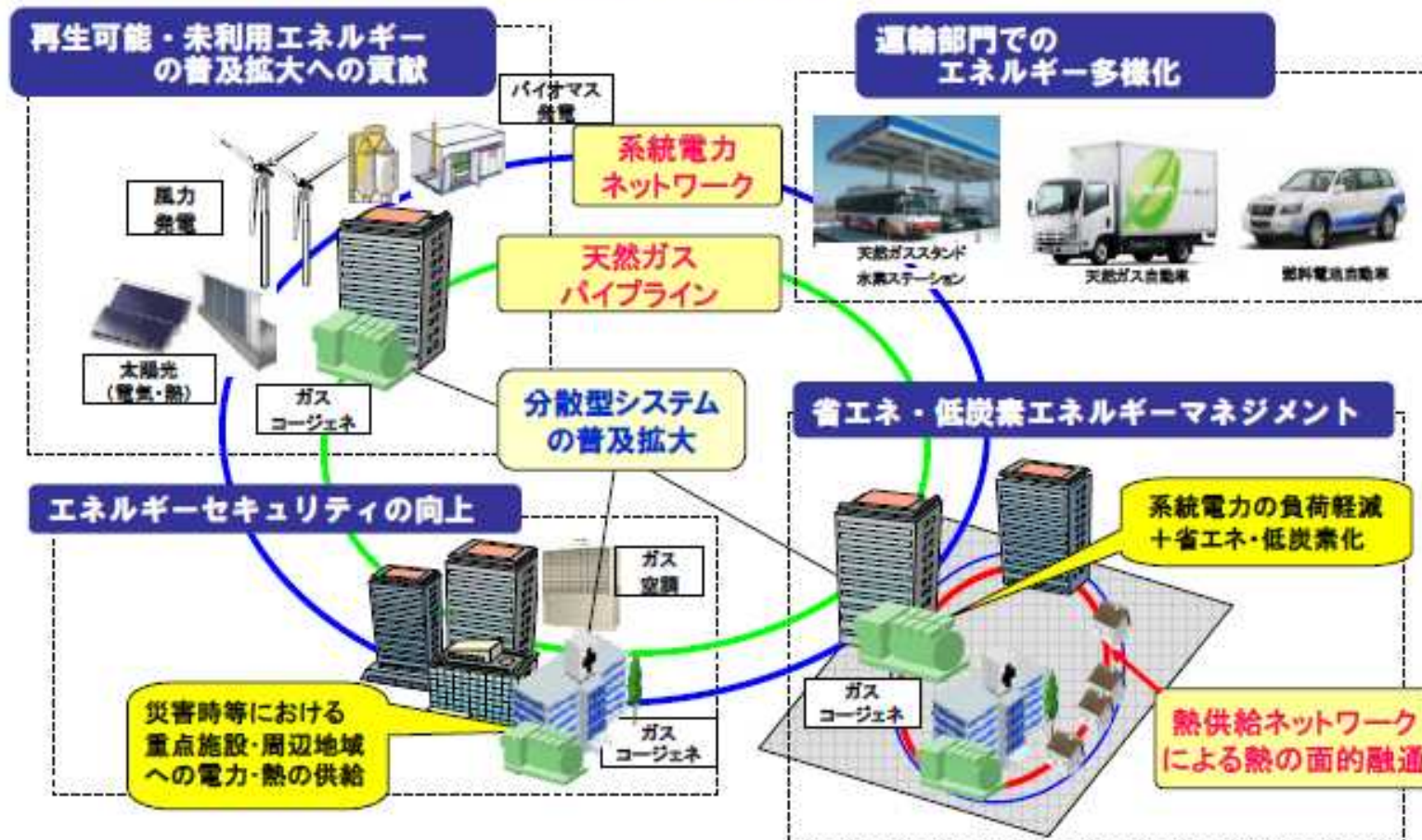


⇒天然ガスコージェネで、国内総電力需要の1～2割程度の導入ポテンシャル
余剰電力を活用することで、天然ガスコージェネ3,000万kWの導入が可能

(参考) 日本ガス協会における見通し(2)

4. 中長期に向けた取組み - (2)分散型エネルギーシステムの普及拡大⑥

天然ガス・分散型エネルギーシステムを核とした
スマートエネルギーネットワークの構築



(参考) 日本ガス協会における見通し(3)

5. 2030年に向けた天然ガスの普及拡大

天然ガスシフトの加速に向け、国などと一体となって実現に取り組む

